




令和4年2月15日発行
 第10号
 岡山市教育委員会
 生涯学習課公民館振興室
 (岡山市北区幸町 10-16,
 234-6015)
 公民館振興室 HP 



住民の学びと活動の拠点に 上道公民館が移転し 12月19日に新築オープンしました

令和3年12月19日、岡山市東区東平島に新築移転した「上道公民館・上道地域センター」の落成式が行われました。平成30年の西日本豪雨で近くを流れる砂川が氾濫し、甚大な浸水被害が起きたことを踏まえ、建物部分で2メートルのかさ上げをしています。

1階には、住民票の交付など市民サービスを担う上道地域センター、公民館事務室、実技室、授乳室があり、ロビーは開放的で明るい吹き抜けとなっており、約8000冊を蔵書する図書コーナーや乳幼児が遊べるスペースがあります。

2階には、2つの講座室、料理講座室、美術工芸室、茶室、研修室（和室）があります。

「子育て世代にも親しまれる公民館を」というワークショップの意見を形にして、施設面でも、ロビーに入ってくるとキッズスペースや絵本・児童書などが目に入り、乳幼児を連れてはじめて公民館を訪れた方が、「こんなところがあるなんて知らなかった。来てよかった」と本を借りて帰られるなど、喜ばれています。

コロナ禍第6波で事業のアイデアを形にすることがすぐには難しい状況ですが、今までに培ってきたつながりや活動を、さらにひろげていきます。



乳幼児が遊べるスペース



2階から見た1階のフロア



2階 講座室



1階 実技室

共に学び育ち合える公民館に

「新公民館」が新たな地で産声を上げました。3年前から検討委員会やフォーラム、新公民館のあり方についての意見交流会などを通して、「こんな公民館に」という地域の方々の声を反映させながら、設計、建築が進み、無事、新築移転することができました。お世話になりました。

上道地域にあって、まちづくりの拠点として

「新公民館」が果たす役割は大きいものがあります。世代をこえて集い、知恵を出し合い、「これからの公民館」「これからの上道」を考え創り出していく取組を、みなさま方と力を合わせて進めていきたいと考えています。

生まれたての公民館をみんなの手で温かく育んでいきましょう。

上道公民館長 有 森 貢

公民館の実践紹介⑱ 御津公民館

「御津の獅子舞」 伝統文化の継承と進化 若者たちのやわらかは発想で新しい取り組みに挑戦！！

はじめに

御津地域は、古くから農業が中心の地で、獅子舞が生活・くらしと密接な関係があり、獅子舞が盛んな地でした。御津町時代には、御津獅子舞保存会を立ち上げ、全国獅子舞フェスタを10年間開催するなど、獅子舞を通したまちづくりを活発に行っていました。

しかし、生活様式の変化、少子高齢化、人口の減少などにより当初12団体あった御津獅子舞保存会も年々減少し、御津の獅子舞が一堂に介する機会である「御津公民館祭り・獅子舞フェスタ」に出演するのは、現在3～4団体となっています。今まで当たり前のようにできていた獅子舞文化の継承が難しくなっています。

若い世代へつなげたい・・・

地域が抱える課題をすぐに解決することはできません。しかし、このままだとダメだ、ただ待つだけでなく、自分たちに何ができるのか、何をしたいのか。公民館も一緒に考えました。「誰に伝えたいのか」という問いには、迷うことなく「若者」との返答。地元で若者が集まらないならば、地元で若者がいるところに直接行こう！地域には、御津中学校、岡山御津高校、朝日塾中等教育学校と一緒に進めていくことになりました。

まずは、学校の授業で「獅子舞」を通して地域について学ぶ、地域学習の一環として出前授業を行いました。地元の若者や縁があって御津とつながりをもった若者に、御津の獅子舞について「知る」、「体験する」、「考える」活動へとつなげる機会をいただきました。

時には「わしら一、なんで獅子舞をしょーるんか！？」という御津の獅子舞への熱い思いを訴えることもありました。中学・高校生と交流することで、獅子舞は昔からの教え、先人の生き方を学び、地域を守り、多世代でつながりを作り、強化していく。災害への危機感が強い今だからこそ必要だ、ということに大人も改めて気が付くことができました。

御津獅子舞シンポジウム

10月には、御津獅子舞のシンポジウムを開催しました。今年度で4回目になります。今までは、獅子舞の歴史を学んだり、地元の宮司さんのお話を聞いたり、御津の獅子舞の各団体の特徴を披露しあっ

たりしてきました。昨年と今年度は獅子舞について学んだ高校生たちが、自分たちの考える伝統文化の継承について発表しました。

高校生、獅子舞の関係者、学校の職員、文化協会や町内会などの地域の人、建部町の獅子舞団体関係者など、様々な立場の人と意見交換することができました。

今まではバラバラに動いていた活動を地域全体の活動として、地域の未来を共に共有しながら、今後とも進めていきたいと思っています。



シンポジウムで発表する高校生

御津公民館祭り・獅子舞フェスタ

11月6日、7日に、「御津公民館祭り・獅子舞フェスタ」を御津公民館で開催しました。約6500人來場がある、御津地域の一大イベントの一つです。御津中学校は、吹奏楽部の発表の他、缶バッチづくりのワークショップを開催。岡山御津高校はティッシュペーパーの空き箱を利用した獅子舞の人形を作るワークショップをはじめ、獅子舞の紙芝居発表、火おこし体験、勾玉づくりなどを行いました。また朝日塾中等教育学校は、御津の獅子舞と中国の獅子舞を融合させた新しい朝日塾中等教育学校バージョンの獅子舞を舞台上で発表したほか、空気砲づくりワークショップや中国の肉まんの販売などを行いました。

このように今年の公民館祭り・獅子舞フェスタでは、中学生や高校生をはじめとした若者の活躍が随所で見られました。



高校生企画のワークショップの様子

地域の人からも「なんだか公民館祭りが変わってきているね。わくわくする！」と言ってもらえました。

これからも伝統文化の継承をはじめとした地域の活動に高校生や若者の参加できる機会をどんどん増やしていきたいと考えます。そして若者らしいやわらかで新しい発想をプラスして、新たな取り組みへと「進化する」を目指します。今の時代にあったやり方を地域の人や若者みんなと一緒に探していきたいと考えています。

公民館の実践紹介② **福田公民館****防災力アップは、地域みんなの力で！
「親子参加型」で楽しく考え体験****はじめに**

福田中学校区では、以前から、防災訓練を独自の計画で実施している町内会がありました。しかし、広範囲の地域住民が集う避難所運営については、課題意識があっても具体的な実施に向けての見通しが立っていませんでした。そのような中、公民館も避難所指定となり、避難所運営について共に考えていくことになりました。「いざ」という時に動けるマニュアルがあることで、役割が明確になり、「誰が何をどのようにすればよいのか」を自覚して、主体的に動ける自主防災組織への一步一步を重ねていくことができるようになりました。

地域の方々と共に防災への取組を進めるにあたって、福田公民館では以下のような2つの視点で考えることにしています。

○避難所運営の初動体制の整備と訓練

○防災についての啓発活動

- ・「じぶんごと」としての認識：知識と準備
- ・避難所運営の組織づくりと主体的な運営

**防災について楽しく「考えよう」「体験しよう」『親子 DE 防災～2021～7月31日』
テーマ①「ゲーム感覚で楽しんで！」**

公民館では毎年、福田学区の安全と安心を守る会防災部会と共催で、「防災」講座を開催してきました。昨年度より、「幅広い年齢層の利用拡大」「若者の参加促進」を視点を、保護者世代の参加を促すことを意識して「親子参加型」の取組に変更しました。

いざという時に、自ら考えて行動できるように、「自分で考える」「体験しながら学ぶ」ことを念頭に置き、今年度はゲーム感覚で楽しめる内容にしました。参加者を2つのグループに分けて、待ち時間ができないようにするなど、プログラムの工夫もしました。職員は各ブースの講師を担当しました。防災部会の方々には、体験での進行やアドバイスをいただき活動への手厚いサポートができました。

テーマ②「いろいろなブースで経験を！」

「感染対策も視野に入れた防災グッズ」のコーナーでは、防災グッズや岡山市の防災メールや公式LINE、防災ポータルサイトなどの紹介をしました。天気予報や地域の危険箇所



風水害プログラム
「水害させかえゲーム」

の把握など、日頃から災害に対するアンテナを高く立てることが大切であることなどをお話させていただきました。

「水害させかえゲーム」では、子どもチームと大人チームに分かれて、避難時の服装や持ち物を選択肢から選んで、ボードに貼り付けながら考えました。「きけんはっけん！」の学習ボードでは、教室の様子を見ながら、地震がきたらどうすればいいかを考えました。子どもたちは手を挙げて、「棚が倒れるから離れないといけない！」「うずくまって泣いていたらだめ。机の下に入らないと！」など、積極的に意見を出してくれました。

「救出訓練」や「搬送訓練」では、ジャッキで重い資材を持ち上げてケロゾーくん（人に見立てた大きなカエルのぬいぐるみ）を救出したり、毛布で担架を作って、実際に人を運んだりすることにも挑戦しました。防災部会の皆さんは、事前練習の成果を発揮され、進行をうまくリードしてくださいました。保護者も子どもたちも、楽しみながら訓練ができました。



毛布で担架トライアル
「ケロゾーくんを運ぼう」

最後のまとめでは、防災食を試食したり、参加者で個々に準備した水出しカップ麺を試食したりする場面も設けました。参加者みんなで試食することも、模擬避難所的な雰囲気につながりました。感想には、「自分の子どもにこんなに防災の知識があるとは知らなかった。感心しました／保護者」「ケロゾーくんを助けるのが楽しかった／子ども」「水で作ったカップ麺、意外においしかったです／親子」などがあり、活動への充実感を感じました。

最後のとめでは、防災食を試食したり、参加者で個々に準備した水出しカップ麺を試食したりする場面も設けました。参加者みんなで試食することも、模擬避難所的な雰囲気につながりました。感想には、「自分の子どもにこんなに防災の知識があるとは知らなかった。感心しました／保護者」「ケロゾーくんを助けるのが楽しかった／子ども」「水で作ったカップ麺、意外においしかったです／親子」などがあり、活動への充実感を感じました。

地域・学校・公民館と一緒に防災へのビジョンを描くこと

各組織が別々に活動していても、描いているビジョンに同じ方向性があることが大切です。地域と学校と公民館が、それぞれの特性を活かして活動しながらも、目標を共有し、向かう先をはっきりとさせていることで、より迅速により強く、子どもや保護者世代・地域の方々への防災意識や行動を促すことにつながると思っています。

今回は、コロナ対策もあり、防災講座への中学生の運営参加は断念しました。今後は、運営に幅広い世代を組み入れていくことも考え、地域防災への取り組みの流れを創造したいと思います。

「楽しかった」「感激した」と大好評

足守公民館

公民館と介護施設がオンライン交流

1月18日に、足守公民館の大正琴クラブと「新あしもりクリニック通所リハビリテーション」がオンライン交流を行いました。

「新あしもりクリニック通所リハビリテーション」の会場は広くて明るいスペースで職員がセッティングしていると約40名の利用者は早々に席に着き、演奏を楽しみにされていました。

事前の試行では順調だったインターネットの接続が、本番になって施設の会場からの声が公民館会場には聞こえないというアクシデントがありましたが、大正琴の演奏が始まると視線はスクリーンに、耳はスピーカーに向けられじっと聞き入る方、マスクの下で口ずさむ方などアットホームなコンサート会場になりました。大正琴クラブの皆さんは「一月一日」「たきび」「北国の春」など8曲を演奏しました。曲が終わるたびに会場では拍手喝采。



施設の会場の様子を職員がチャットで文字にして伝え、それに応える公民館会場。最後はアンコールの声もあがり、ジェスチャーで感謝の思いを伝えあう盛り上がりとなりました。

参加者からは「楽しかった」「知っている人が映ってよかった」と中には感激の涙ながらに感想を話してくださる方もおられ大好評でした。施設の担当者からも会場の雰囲気の良いさに感激したようで「またやりたい」という感想をいただきました。

楽しく体験 世界を知ろう

「ユニセフわくわくツアー」 操山公民館

11月6日、操山公民館で「ユニセフわくわくツアー」を開催しました。参加者は会場に設置された5つのブースで、いろいろな国の文化にふれました。ユニセフ協会のブースでは地雷や世界の子どもの今を知る展示がありました。「人形劇やワークショップもあり楽しく学ぶことができた」「子どもたちが真剣に展示を見ていた」などの感想が寄せられました。



地雷の展示



韓国の人形劇



セネガルの布を使ってマグネットづくり



ネパール再生紙で鉛筆づくり

中学生と地域の人たちが語り合い交流

操南公民館

12月18日、3学区(旭操・操南・操明)地域交流会を操南公民館で開催しました。



交流会では操南中学校1年生7名が地域の方に向けて、それまで取り組んできた活動を発表しました。発表内容は、地域の遺産や遺跡を知るためのフィールドワーク、防災学習、環境学習、国際学習、人権学習など。

中学生の発表の後は、地域の方と中学生がグループに分かれて、意見交換を行い、地域の方から中学生へ多くの質問もいただきました。

参加した地域の方からは「中学生たちがこんなにいろいろな活動に取り組んでいるとは知らなかった」「自分たちが学んだことと今はずいぶん違いがあることに驚いた」などの感想が寄せられました。中学生からは「知識だけでなく人とのつながりが大切、これからも地域と関わっていきたい」と力強い言葉がありました。